

電子集計と投票結果の突き合わせは必要

デモクラシー・ナウから

2024 年 7 月 20 日

https://www.democracynow.org/2024/7/30/venezuela_2024_election_maduro_gonzalez

マドゥーロは勝利を宣言、選挙後にクーデターを企てた野党を非難

ベネズエラでは月曜日、大統領選挙で当選が宣言された後、暴力的な抗議デモが発生した。マドゥーロ大統領は、ファシスト野党がクーデターを起こそうとしていると非難し、反論している。

デモクラシー・ナウは二人の専門家から話を聞いた。

「ベネズエラ・アナリシス」誌のアンドレイナ・チャベス記者は、野党の主張には根拠がないと言う。ベネズエラの歴史家アレハンドロ・ベラスコは、米国の制裁によってベネズエラがいかに社会的動揺を高めているかを語る。

司会 デモクラシー・ナウ！です。司会のエイミー・グッドマンです。

ベネズエラでは 7 月 29 日、ニコラス・マドゥーロ大統領の 3 期目就任が国民選挙評議会によって宣言されました。その後、野党勢力による反政府デモが発生した。

選挙評議会によると、初期の結果では、マドゥーロ氏の得票率は約 51%、野党候補のエドムンド・ゴンサレス氏の得票率は 44%であった。

しかし、野党は公式結果を拒否し、不正選挙の証拠があると主張している。カラカスのデモ隊はマドゥロ政権を非難した。29日、ニコラス・マドゥロは、右派ファシヨ野党がクーデターを起こそうとしていると非難した。

ニコラス・マドゥロ大統領：

我々が今日直面していることは初めてのことでない。ベネズエラで再び、ファシスト的かつ反革命的なクーデターが起ころうとしている。映画なら「グアイドー2.0」のようなものだ。歴史は繰り返す、最初は悲劇として、次は喜劇として。ヘーゲルが言い、それをマルクスが広めたようだ。歴史はまず悲劇として自らを提示し、次に喜劇として繰り返す。私たちはすでにそれを体験している。私たちはこの映画を見た。同じ映画ではないが、脚本は似ている。一方は、平和、民主主義、繁栄、進歩を望む民衆であり、もう一方は、米帝国と結びつき、ファシスト的反革命計画を掲げる、憎悪に満ちたエリートたちである。

AMY GOODMAN：29日、ベネズエラの野党大統領候補エドムンド・ゴンサレスは公式結果を拒否した。ベネズエラの司法長官は、野党を非難した。彼らがベネズエラの選挙システムをハッキングしようとしたと...

EDMUNDO GONZÁLEZ:

今日の投票日に起きたことは、あらゆる規則に違反するものだ。選挙人名簿の大半がまだ公開されていない。和解と平和的変革という私たちのメッセージは、今も変わらない。ほとんどのベネズエラ人もそれを望んでいると確信している。私たちの闘いは続き、ベネズエラの人々の意志が尊重されるまで休むことはないだろう。

AMY GOODMAN：

ベネズエラの選挙に対する国際的な反応はさまざまだ。中国、キューバ、ロシア、イラン、ホンジュラス、ニカラグアはマドゥロの再選を祝福した。メキシコも選挙結果を承認すると述べた。

一方、ラテンアメリカ 7 カ国は選挙結果の完全な見直しを求める共同書簡に署名した。
(アルゼンチン、チリ、コスタリカ、ペルー、パナマ、ドミニカ共和国、ウルグアイ)
ベネズエラはこの書簡に反発し、これらの国から外交官を引き上げた。
アントニー・ブリンケン米務長官は、米政府は選挙結果に「深刻な懸念」を抱いていると述べた。

今回の選挙は、ベネズエラが米国主導の制裁もあって経済危機に直面している時に行われた。国連によると、2015 年以來、700 万人以上のベネズエラ人が国外に流出している。

抗議デモ参加者：私はデモに来た。私たちは自由が欲しい。この政府にうんざりしている。変化を求めます。ベネズエラで自由に生活したい。家族にここに帰ってきてほしい。もう出て行ってほしくない。家族とともに自由になりたい。

AMY GOODMAN :

アレハンドロ・ベラスコはニューヨーク大学准教授で、近代ラテンアメリカの歴史家であり、『NACLA Report on the Americas』の元エグゼクティブ・エディターです。彼はベネズエラで生まれ育った。

ベネズエラの首都カラカスからは、ニュースサイト「ベネズエラ・アナリシス」の記者、アンドレイナ・チャベスがお送りします。

お二人ともデモクラシー・ナウによろこそ！ 少しカラカスに滞在しましょう。

まずアンドレイナさん、この結果と他のラテンアメリカ諸国や野党による攻撃についてお答えいただけますか？

アンドレイナ・チャベス :

お招きいただきありがとうございます。

ベネズエラは今、クーデターの未遂に直面しています。それが今日の現実です。

日曜日に大統領選挙が行われました。そしてその直後、全国選挙評議会が結果を発表すると、予想されていた通り、強硬な野党はこの結果を認めず、即座に街頭での抗議を呼びかけました。

これが、我々が目にしてきたことだ。街頭では暴力的な抗議活動が行われている。すでに数十人が逮捕されています。司法長官によると、この人たちの多くは犯罪歴があるそうです。彼らの中には最近ベネズエラに戻ってきた者もいます。つまり、これは計画的なものであり、特にこの連中の多くが武器を持っていることからわかります。

そして、すべてが示しているのですが、マリア・コリーナ・マチャドと彼女の政治組織であるベンテ・ベネズエラが、ニコラス・マドゥロ政府に対するこの新たなクーデターの背後にいるのです。マドゥロは一昨日、ベネズエラの3期目の大統領に再選されたばかりです。

今、私たちは目にしている。ベネズエラの選挙を認めない右派の政府や右派の外国人がたくさんごめいている。

これは新しいことではない。何度も何度も見てきたことだ。2018年にも同じことが起こった。その年に選挙があり、マドゥロが再選されたときも、まったく同じことが起こった。

LAの右派政権はベネズエラ政府を承認せず、米国政府もベネズエラ政府を承認しなかった。そして翌年、2019年には、選挙に勝利せず、たんにベネズエラの大統領を宣言したフアン・グアイドー率いる暫定政府を支持するようになった。

そして、いま彼らの間で大統領を自称する人物はいない。マリア・コリーナ・マチャドは、今度の大統領選挙で自分が推薦したエドムンド・ゴンサレスが大統領になったとすでに発言している。そして、彼が圧倒的多数で勝利したと言っている。これは過去の選挙でも何度もやってきたことだ。

しかし、今のところその証拠を提示していない。これまで彼女はずっとこうやってきた。「いわゆる不正の証拠を提示する」、「エドモンドが過半数の票を持っている証拠を提示する」と言っていたのに出さない。

これも野党の典型的なやり方だ。過去の選挙でも、自分たちが勝ったという証拠を持っていると言いながら、実際には何の証拠も示さなかった。

そう、これは基本的に、ベネズエラで過去何年にもわたって起きてきたことと同じだ。同じことの繰り返しなのだ。

私が言えるのは、2002年以來、連中は事実上のクーデター未遂を繰り返しているということだ。

ベネズエラがクーデター未遂をうまく逃れたことは一度もない。暴力的な行動、暴力的な街頭妄動、自らを大統領だと名乗る人々、外国からの侵略の試み、マドゥロ大統領に対する暗殺の試みなどすべてを受け止めてきた。

つまり、これはもう何年にもわたり続いているクーデターのもう一つの試みなのです。

JUAN GONZÁLEZ（副司会）：

アンドレイナ、お聞きしたいのですが……。

まず第一に、選挙システムに対する大規模なハッキング攻撃があったというベネズエラ政府の主張について、米国のメディアではあまり注目されていません。もしそれが事実なら、詳細な結果の発表にどのような影響があったのでしょうか？

アンドレイナ・チャベス

はい、ありました。

エルビス・アモロソ全国選挙評議会議長は、日曜日の真夜中に選挙結果を知らされたとき、送信システムに対するハッキング攻撃があり、集計作業が遅れ、選挙結果の報告が遅れたと述べた。

しかしそのときは、何が起きたのか、どのようにシステムがハッキングされたのか、具体的な詳細は語らなかった。その後、彼は調査を命じました。ベネズエラの検事総長は、誰がこのハッキングを行ったのか、どこから侵入したのか、その結果はどうだったのかを調査していると述べた。

今のところわかっているのは、この試みは成功しなかったこと、しかし開票プロセスを遅らせるには十分だったことだけだ。だからこそ、その日の終わりに選挙結果を発表することができたのだ。

というわけで、この件についての詳細は、日が経って、法務官がより詳しい情報を提供するようになるでしょう。

JUAN GONZÁLEZ :

また、アメリカのメディアは、ベネズエラの大統領選挙に 10 人の候補者がいたことをあまり報道していません。アメリカ国民が通常の大統領選挙で得られる選択肢よりもはるかに多いのです。

大統領選に立候補した他のマイナーな候補者たちは、選挙結果をどう受け止めているのでしょうか？

ANDREÍNA CHÁVEZ:

もう一度言います。ベネズエラには 10 人の大統領候補がいた。そのうち 9 人がマドゥロ政権に反対する候補者だった。そしてもちろん、極右の野党候補だったエドムンド・ゴンサレスはマドゥロの主なライバルだった。

しかし、だからといって、他の候補者が見放されるべきだということにはならない。彼らの何人かは実際に 2018 年の大統領候補であり、かなりの票を獲得することができた。つまり彼らにはかなりの支持者がいる。

彼らの中には、ベネズエラの投票システムを信頼し、選挙結果が公正で、正しいと信じていると公言している者もいる。そして、彼らの多くはすでに、ベネズエラの当局と日曜日に出された結果を信頼していると言っている。まだ何も言っていない人もいる。

そしてもちろん、投票数が少なかった大統領候補もいて、彼らは今のところ声を上げていない。

しかし、大統領候補だけでなく、多くの国際監視団がベネズエラを訪れている。彼らは選挙を監視するためにここに来た。すでに、全米法律家協会のような国際的なオブザーバーが、透明で公正な選挙を見たと言っている。

彼らは言う。

透明で公正なプロセスを見た、平和的な投票プロセスを見た、いかなる事件も見なかった。選挙結果が改ざんされたり操作されたりしたことを示すものは何もなかったと。つまり、基本的にはそういうことだ。

JUAN GONZÁLEZ:

わかりました。アンドレイナ。できればアレハンドロ・ベラスコ教授（ニューヨーク大学准教授、近代ラテンアメリカの歴史家）に代わっていただきたいのですが。教授、選挙後のベネズエラで起きていることへの感想はいかがですか？

ALEJANDRO VELASCO:

皆さん、まず、お招きいただいたことに感謝します。

アンドレイナがコメントしていたように、私たちがベネズエラで目にしていることのいくつかは、過去に私たちが経験した選挙争いや紛争に関する瞬間と酷似しているように思えます。

しかし、ここにはいくつかの重要な違いがある。

ベネズエラ政府が不正疑惑を主導している、あるいは不正疑惑を助長しているという主張の根拠は、開票方法の違いにあると思う。以前の選挙で行っていたような機械による 1 票ずつの集計は、今回行われていない。

電子投票の結果は従来よりはるかに短い期間で判明する。しかしその細かい内訳を発表するにはもう少し時間がかかるということだと思う。

マドゥロ氏の勝利と報じられた選挙結果が、各投票単位の実際の投票結果を突き合わせることは、依然として大きな課題である。

これについては、この地域の右派政権だけでなく、左派や中道左派の政権ももめている。ブラジル外務省も、ペトロ政権下のコロンビア政府も、メキシコ政府も、いずれも最近、ベネズエラの選挙当局に対し、結果の信頼性を確認するためにデータを公表するよう求める宣言や声明を発表している。

その一方で、アンドレイナがうまく説明してくれたように、激闘に持ち込もうとする野党がある。マリア・コリーナ・マチャド率いる野党は、過去にも根拠のない不正疑惑を唱えてきた。

ただ今回が違うのは、昨日の記者会見で、彼らは出口調査という非常に重要な選挙結果を公表したことだ。人々はそれをオンラインで確認することができる。彼らが日曜日の投票が終わった時点で、さまざまな選挙区で実際に実感したものと一致させることができるのだ。

だから今、本当の戦いは、日曜日に何が起こったかを明らかにすることだ。本当の闘いは全国選挙管理委員会の足元にある。この証拠を公表することで、実際の投票結果に対する疑念や批判を払拭することができる、私たちはより明瞭になる。

AMY GOODMAN :

ベラスコ教授、制裁の効果とアメリカ政府の役割について、あなたが今疑っていること、あるいは証明されていることをお話しいただけますか？

「ワシントン・ポスト」紙が制裁について非常に興味深い記事を掲載しました。このなかでトランプ大統領の下で国務省の政務次官を務めたトーマス・シャノンの発言を引用している。彼はこう言っています。「私は、制裁はベネズエラ経済を粉々にし、深刻な人的被害をもたらすだろうと言った」

(Thomas Shannon : Undersecretary for political affairs at the State Department under President Trump)

2015 年以降、何百万人もの人々がベネズエラを離れています。そのことと、今日の米国の役割について話していただけませんか？

アレハンドロ・ベラスコ

ええ、その通りです。

ベネズエラのケースでも、もっと広く世界のケースでも、膨大な学術文献が証明しています。制裁というものは意図する政治的結果よりもマイナスの現実をもたらすことを。ほとんどの場合、大きな影響を受けるのは政権を握っている政府ではなく、国民全体である。

トランプが大統領に就任したとき、彼自身がベネズエラに対する最大限の圧力と呼ぶキャンペーンを実施したことを忘れてはならない。

マルコ・ルビオは、1960 年代のキューバ禁輸以来、そしてもちろん今日まで、ベネズエラ制裁は最も厳しい制裁措置だったと認めている。

それがベネズエラ経済に多大な影響を及ぼし、過去 10 年間で数百万人という多くの人々を国外に追いやったことは疑いようがない。

しかし、ベネズエラ政府の政策アジェンダをドル化へとシフトさせ、ウゴ・チャベス大統領時代に擁護していた社会プログラムの一部を縮小させたことも事実だ。

映像の一部ですが、そのとおりでしょう。

「私の家族は出て行った。帰ってきてほしい。ドルが手に入らなければ生活できない」
これは民衆の不満の代表です。それが、街頭で目にする不満や世論調査にも反映されているのです。

AMY GOODMAN :

さて、私たちはこの議論をスペイン語で続け、私たちのウェブサイト democracynow.org の en español に掲載する予定です。

ぜひご覧ください

【翻訳チェック 鈴木頌】